



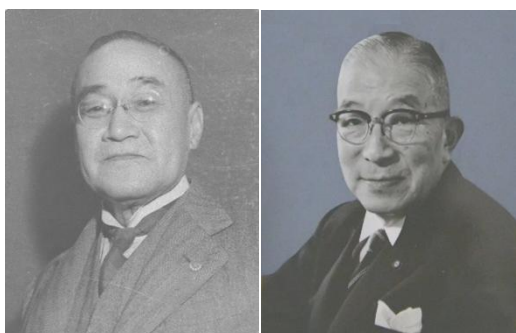
2026年(令和8)は、1946年(昭和21)4月に女性が初めて選挙権・被選挙権を行使して80年に当たります。来期は「女性と議会政治のあゆみ」と題して、令和8年1月6日～令和8年8月27日まで2期に分けて開催します。

企画展示のご案内

「人物シリーズ『継』第5回
吉田茂・鳩山一郎」
令和7年10月1日(水)から
12月25日(木)まで

戦後内閣総理大臣をつとめ、我が国の戦後復興に貢献し、大きな足跡を残した吉田茂と鳩山一郎を取り上げた企画展示を開催中です。

人物シリーズ『継』の最後となる展示終了が近づいておりますので、この機会にぜひお立ち寄りください。皆様のご来館を心よりお待ちしております。



吉田 茂

鳩山 一郎

「女性と議会政治のあゆみ 通史編」
令和8年1月6日(火)から
4月27日(月)まで

女性の政治参加を求める動きは明治時代からはじまり、多くの人たちによって政治的諸権利の獲得運動が続けられました。今回は、戦後の実現に至るまでの動きと、今日までのあゆみを関係資料により紹介します。



日本初の女性代議士 39名

次回は、令和8年5月1日から8月27日まで「女性と議会政治のあゆみ 人物編」を紹介する予定です。

昭和100年 時代と人と ③「政治のことば」でふりかえる

本年（2025年・令和7年）は、昭和100年です。昭和史の事件や人物についてふりかえてみたいと思います。

今回は政治にまつわることばによって当時の世相を見てみましょう。
※発言者及び発言内容には諸説あります。

昭和改元は「光文」の誤報でスタート。「昭和」の出典は『書経』の一節、「百姓（ひやくせい）昭明（しょうめい）にして万邦（ばんぱう）を協和す」からとられたものだった。

1927年（昭和2）、衆議院予算委員会で、片岡直温大蔵大臣の失言「渡辺銀行が到頭（とうとう）破綻致しました」から取り付け騒ぎとなり、金融恐慌が発生。田中義一内閣に交替し、高橋是清蔵相は、モラトリアムと裏白紙幣の大量発行で事態を鎮静化。

1928年（昭和3）、第1回男子普通選挙が実施された。露骨な選挙干渉を行う鈴木喜三郎内務大臣は、野党民政党を意識し「議会中心主義などという思想は民主主義の潮流に掉さした米英流のもので、我が国体と相容れない」と声明。甲斐なく与野党は1議席差。

1929年（昭和4）、市川房枝は、「婦選は鍵なり」と女性参画による社会変革の訴え。一方、治安維持法改正に反対した無産政党的山本宣治代議士が襲われる。大山郁夫は「山本宣治唯一人孤塁を守る。だが私は一人でも淋しくない。背後に大衆が支持して居るから」と追悼。

1930年（昭和5）、政府は国家の体面を保つため、旧平価による金解禁を議会に諮らず実施。国民の生活は困窮し、東京駅のホームで浜口雄幸首相が襲われた。刹那、浜口は「男子の本懐」とつぶやく。その後議会は、浜口に出席を強いて症状が悪化、この世を去った。

1931年（昭和6）、満洲事変が勃発。議会では松岡洋右が「満蒙問題は我が国民の生命線」とぶち上げる。

1932年（昭和7）、五・一五事件では、「話せばわかる」「問答無用」のわずかなやりとりで首相が銃弾の犠牲に。撃たれた犬養毅のことば。「今の若者をも一度呼んで来い。話して聞かせてやる」。

1934年（昭和9）、帝人事件が発生、検察当局による冤罪事件に「検察ファッショ」の非難。片や陸軍省はパンフレットで政治介入をうたう。

1936年（昭和11）の二・二六事件は、本格的なクーデター事件であり、原隊復帰を呼びかける「今からでも遅くない」が流行語。議会では斎藤隆夫が軍部に対し「国民の忍耐力にも限りがある」と批判。翌年、浜田国松は寺内寿一陸軍大臣と割腹問答を繰り返す。

1938年（昭和13）、前年の盧溝橋事件を発端に、日中間の戦火が拡大。近衛文麿政権は「爾後（じご）国民政府を対手（あいて）とせず」との声明を発し、交渉相手を蒋介石から汪兆銘に切り替えた。他方、我が国は戦時体制を整えるため、国家総動員法が成立。審議中、陸軍省の説明員佐藤賢了が、議員に「黙れ（長吉）」と発言。また西尾末広は近衛首相を励ます意味で「スターリンの如く」と発言、即刻除名に。

1939年（昭和14）、平沼騏一郎首相は、日独防共協定で連携するはずのドイツが、突如ソ連と不可侵条約を締結したことを受け、「欧州の天地は複雑怪奇」のことばを残して退陣。

1940年（昭和15）、斎藤隆夫は、政府に対して「聖戦の美名に隠れて国民的犠牲を閑却し」と事変への無定見ぶりを批判。やがて近衛新体制の気運が高まると、「バスに乗り遅れるな」と既存政党は進んで解党。

1942年（昭和17）、戦局悪化の中、中野正剛は東条英機政権とその便乗主義を批判。母校早稲田大学では「天下一人を以て興る。諸君みな一人を以て

興ろうではないか」と学生を鼓舞。

1945年(昭和20)、昭和天皇「**耐え難きを耐え、忍び難きを忍び、もって万世のために太平を開かんと欲す**」と玉音放送。終戦後の食糧事情は劣悪で、松谷天光光が「**あの餓死者になりたくない。あなたはどうか。いっしょに生きましょう**」と街頭演説。

1946年(昭和21)、新日本建設に関する詔に再び五箇条の御誓文が登場。総選挙の結果、日本共産党が初めて議場に立つ。徳田球一は「**我々は憲法よりも食糧を、是が我が党の『スローガン』である**」と演説。

1947年(昭和22)、吉田茂首相が年頭の辞で「**労働争議を指導する急進分子は不逞の輩**」と非難。GHQの二・一ゼネスト中止まで政情不安が高まる。

1950(昭和25)、朝鮮戦争が勃発。占領政策の転換点となる。講和に向けた動きも盛んに。「**全面講和論は国際情勢を知らない曲学阿世の徒の空論**」は、南原繁東大総長に向けた吉田の批判。戦時補償や占領経費の負担により、インフレは加速。財政引締め(ドッジ・ライン)のしわ寄せは国民生活に。池田勇人蔵相の「**所得の少ない人は多く麦を食う、所得の多い人はコメを食う**というような、経済の原則に沿った方へもっていきたい」は、「**貧乏人は麦を食え**」に変換されて流布。

1951年(昭和26)、日本社会党委員長に就任した鈴木茂三郎は「**諸君は断じて、銃をとり背囊を背負って戦争挑発者の手先、戦争協力者になってはならない**」と演説。安全保障をめぐる政党の分裂と融合は、さらに続く。

1953年(昭和28)、吉田は衆議院予算委員会西村栄一の質疑で不穏当発言。委員会後に問題視され、解散を余儀なくされた。「**バカヤロー解散**」である。

1954年(昭和29)、造船疑獄事件で吉田は犬養健法務大臣に、佐藤栄作自由党幹事長に対する逮捕請求の無期限延期などを命じさせた。吉田は「**指揮権発動は当然だ、造船疑獄は流言飛語**

と強気。政権崩壊のきっかけとなる。同年、日本民主党の鳩山一郎が総理の指名を受けると、入閣希望者が殺到。郵政大臣の内定を土壇場で覆された川島正次郎が漏らしたとされる「**政界一寸先は闇**」は、今日でも使われる。

1957(昭和32)、石橋湛山首相は、予算審議を前に、病で退陣を決意。三木武夫自由民主党幹事長が代読した「**私は政治的良心に従います**」は、言行一致の鑑とも、腹芸のできない人とも。

1960年(昭和35)は、「政治の季節」の終幕にふさわしく、政治のことばも数多い。日米新安保条約の国会承認をめぐり、反対する大衆が議事堂を包囲。岸信介首相は「**私は『声なき声』に耳を傾けて日本の民主政治を守っていきたい**」と語ったが、政権維持が困難となり、内閣は総辞職。

続く池田勇人内閣は、経済優先が国民感情をつかみ、「**寛容と忍耐**」、「**私は嘘は申しません**」から好人氣に。

野党の西尾末広は「**政権を獲らない政党はネズミを獲らぬ猫と同じだ**」と民主社会党を結成、現実路線により政界地図を塗り替えようとした。しかし、浅沼稻次郎社会党委員長の不慮の死が、新党の躍進を押しとどめる。

1963年(昭和38)、大野伴睦が選挙に際して。「**猿は木から落ちてても猿だが、政治家は選挙に落ちたらタダの人**」。政治の世界は厳しい。

1965年(昭和40)、那覇空港に降り立った佐藤栄作首相は「**沖縄の返還なくして日本の戦後は終わらない**」と思いを語る。

1970年(昭和45)、佐藤総裁四選阻止に三木が「**私は何も畏れない。ただ大衆のみを畏れる**」と言い放つ。マスコミ戦術が奏功し、四選に立ち向かう「**クリーン三木**」が定着。

1960年代から70年代は、革新自治体が隆盛。成田知巳委員長率いる社会党、「**地方から中央を包囲する**」と意気込む。

1973年(昭和48)、第4次中東戦争によるオイルショックから、急激な物

価高。「狂乱物価」の名付け親の福田赳夫が田中角栄内閣の蔵相に。時代は列島改造から総抑制へ。

1974年(昭和49)、田中退陣ののち、椎名悦三郎自民党副総裁の裁定により、総裁は三木武夫となる。三木は「青天の霹靂(へきれき)」と驚いて見せた。

1977年(昭和52)、日本赤軍がダッカ空港でハイジャック事件を起こす。福田首相は、犯人の要求をのみ、「(人質の)人命は地球より重い」と身代金を支払い、収監メンバーを釈放。

1981年(昭和56)、第二次臨時行政調査会の土光敏夫は、「増税なき財政再建」を掲げる。三公社の民営化は、のち「戦後政治の総決算」を標ぼうする中曽根政権の行政改革に結実。

1982年(昭和57)、自民党内最大派閥の田中派は、田中がロッキード事件の係争中で、次期総裁は中曽根を推す

ことに。金丸信は「親分が右といえど右、左といえど左なのだ」と不満の多い派内の引締め。

1989年(昭和64・平成元)、昭和天皇が崩御され、「平成」の新時代を迎える。社会党は、「ダメなものはダメ」「やるっきゃない」の土井たか子委員長のもと、消費税、牛肉自由化、リクルート事件、政治家のスキャンダルなどの追い風を受け、参議院選では与党自民党を過半数割れに。土井の「山が動いた」は、社会党躍進のことばとなった。

(主な参考文献)

岩見隆夫『演説力一わかりやすく熱い言葉で政治不信を吹き飛ばせー』2009年 原書房/伊藤惇夫『永田町の回転ずしはなぜ二度回らないのか』2006年 小学館/読売新聞社政治部『時代を動かす政治のことば』2001年 東信堂/岸本弘一『議会政治は生きている』1990年 時事通信社/『昭和 二万日の記録』1~19 1989年~講談社

2026年 衆議院憲政記念館カレンダーを作成しました

来年の企画展示に関連する当館所蔵の錦絵をモチーフにした2026年カレンダーを作成し、館内で来館者に配布しています。

作者の楊洲周延(ようしゅう ちかのぶ)は、幕末から明治にかけて活躍した浮世絵師です。明治政府の欧化政策のもと、洋服を着用する皇族や華族の群像や、きものに洋風小物を取り入れた新しいファッションの女性たちの姿などを数多く描きました。周延は、幻燈に見立てた背景の丸い円に文明開化の時代の女性たちの夢や心の中を描いたとされる「幻燈写心鏡(げんとうしゃしんくらべ)」と題されたシリーズを描きました。

明治初期、女子の高等教育が始まり、西洋の文化や動向について知識を吸収して社会で活躍する女性たちがあられ、自由民権運動のさなかには、

女性民権家の演説は人々の注目を集めました。演説の影響を受けて、運動に身を投じた女性も多くでたようです。



【発行人】 中居 健吾 【印刷・発行】 衆議院事務局 憲政記念館
【編集責任者】 石川 真一 〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-8-1
TEL : 03-3581-1651



本紙について、私的利用・引用等著作権法で認められた行為を除き、無断で改変・転載・複製を行うことはできません。引用される場合には出所を明示し、また、転載等を行う場合にはあらかじめ当館へご連絡ください。